様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：１１２０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３７２０１９５

研究課題名（和文）ブータン王国の危機言語マンデビ語の現地調査による記述及び形態統語論的研究

研究課題名（英文）Descriptive and Morphosyntactic Study of Mangdebikha, an endangered language in the kingdom of Bhutan

研究代表者
西田　文信（NISHIDA, Fuminobu）

岩手大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号：４０３６４９０５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,000,000円、（間接経費）　900,000円

研究成果の概要（和文）：現地調査を中心とした資料収集を行い、ブータン王国で話されている消滅の危機に瀕した言語のひとつであるマンデビ語ツァンカ方言についての記述言語学的研究を進めた。音声面では、複合語におけるピッチに関する資料を収集分析した。形態面では、基礎語彙に関する歴史言語学的研究を行った。統語面では談話資料を収集する必要性から、民話の収集も行い、格標識が談話の中で果たす役割や、格標識の省略などを分析も行った。また社会言語学側面に関しても言語使用の実態について解明することができた。

研究成果の概要（英文）：Mangdebi kha, is a language of the East Bodish group spoken in the Mangde river basin, on the eastern slopes of the Black Mountains of west central Bhutan and also in adjacent parts of the western Black Mountains. The language is also spoken in several villages to the east of the Mangdechu between Trongsa and Zh'amgang. The Mangde speaking area is bounded to the west by Dzongkha, to the east by the Bumthang language, to the north by the Lakha speaking area, and to the south by the Kheng and Black Mountain Monpa languages. Throughout the research period, we could work on Tshangkha variety of Mangdebikha, under the auspices of the Dzongkha Development Commission of the Royal Government of Bhutan toward the completion of a grammar of Mangde. Main research findings we obtained are as follows: pitch accent system of compounding words, origin of basic words, case marking system, and sociolinguistic aspects of this language.

研究分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：マンデビ語　ブータン王国　記述言語学　危機言語　チベット・ビルマ語派

１．研究開始当初の背景

(1) ブータン王国には未だ研究が十分に進んでいない民族言語が多数存在する。ブータン諸語の大部分はシナ＝チベット語族チベット＝ビルマ語派に属する。ブータン王国中部で話されている所謂ブムタン・グループの諸言語や東部で話されている諸言語はそれぞれ音韻上及び形態上の共通特徴を有しているが、それらがチベット＝ビルマ語派の古い様相を残すものではないかとの見方もあり、言語学的に非常に興味深いものである。

(2) ブータン諸語研究の嚆矢となった George van Driem. 1991. *Report on the first linguistic survey of Bhutan*. Thimphu: Royal Government of Bhutan.の著者の手になる George van Driem. 2001. *Languages of Himalayas*. Leiden/ Boston/Köln: Brill. では、ブータン諸語の概説が施されてはいるが、論述は文化的・地理的背景のみで、ブータン王国内で確認できる 19 言語の音韻・形態・統語についての論考は付されてはいない。

(3) 1990 年代より調査を継続している George van Driem 以外に、2000 年以降、Tim Bodt 及び Erik Andvik が東部のツァンラ語を、Gwendlyn Hyslop が北部のクルテップ語をそれぞれ調査し記述文法作成済みないしは作成中である。しかし、マンデビ語をはじめとするブムタン諸語の研究者は国内外を含め研究代表者以外に存在しない。ブータン諸語の記述・歴史言語学的研究は未だに手薄であり、チベット＝ビルマ語派の諸語群と比較しても研究が進んでいるとは言い難いのが現状である。これはひとえに、ブータン王国国内での言語調査許可取得の難しさに起因している。

(4) 本研究は、ブータン王国の諸言語の中でもその重要性にもかかわらず、世界的に見ても研究代表者の基礎的調査研究以外にこれまで研究論文のないチベット・ビルマ系言語に属するマンデビ語 Mangdebikha：シナ=チベット語族、チベット=ビルマ語派、ヒマラヤ語支、チベット=キナウリ語群、東チベット諸語、Nyenkha、Henkha、Lap、Mangdekha とも称される)の記述的研究を行うものである。

(5) 関連文献の収集及び現地調査を中心に行う。関連文献については、日本国内で刊行されたものはほぼ全て収集する。欧文文献については海外の研究機関に依頼し調査を継続する。現地調査に関しては、ブータン王国において話されるマンデビ語について現地調査を中心とした資料収集をおこない、記述言語学的研究を進める。ブータン渡航時にはゾンカ語開発委員会（Dzongkha Development Commission)、トンサ県庁、ワンディポジャン県庁、ブムタン県庁などブータン国内の関係部署への訪問を行い、将来的な共同研究の基盤を構築する。

２．研究の目的

(1) 現地調査により収集した音韻・音声・形態統語論のデータを分析しデータベース化を行う。

(2) 周辺諸言語との言語接触、借用等、言語動態論的視座に立脚した語彙分析を施す。

(3) 歴史比較言語学の観点から、ブムタン諸語の正確な下位分類を提示し、ブムタン諸語における各語彙の祖形を再構し、チベット＝ビルマ祖語及び周辺諸言語との親疎関係を解明する。

３．研究の方法

(1) 既に公刊されたマンデビ語の周辺諸言語に関する資料の収集及び整備を行う。年最低 1 回の現地調査により収集した音韻・音声・形態統語論のデータを分析しデータベース化を行う。

①収集した IPA 精密表記による音声データを解析する。（音素抽出・音響音声学的解析）

②収集した形態統語論的データを解析しグロスを付す。（形態統語論的解析）

③上記言語情報のデータベースを作成する。（データベース化）

現地調査により収集した音韻・音声・形態統語論のデータを分析しデータベース化を行う。

分析に当たっては、R. M. W. Dixon. 2009. *Basic Linguistic Theory: Methodology*. Oxford: Oxford University Press.で提示された Basic Linguistic Theory により進めていく。音声データの分析には Paul Boersma 及び David Weenink（アムステルダム大学）開発の音声分析ソフト Praat を用いる。

(2) 周辺諸言語との言語接触、借用等、言語動態論的視座に立脚した語彙分析を施す。

①収集した語彙項目を意味分析する。（語彙項目の意味分析）

②言語接触・借用・偶然の一致・言語の普遍性等の可能性を考慮に入れつつ、James A. Matisoff. 2003. *Handbook of Proto-Tibeto-Burman*. Berkeley/ Los Angeles/ London: University of California Press.に記載のチベット＝ビルマ語祖語の祖形や、ゾンカ語開発委員会（Dzongkha Development Commission）所蔵の周辺言語の語形との照合を行い、語彙の歴史を確認する。

(3) 歴史比較言語学の観点からチベット＝ビルマ祖語及び周辺諸言語（ゾンカ語・ブムタン語・ツァンラ語等）との親疎関係を解明する。

(4) 本研究は研究代表者単独による研究であるが、適宜以下の情報提供者及び調査補助者の協力を仰ぐ：

【情報提供者】

Pema Wangdi 研究員(Dzongkha Development Commission)

Namgay Thinley 研究員 (Dzongkha Development Commission)
Ugen Wangchuk 研究員(Dzongkha Development Commission)
【調査補助者】
Phuntsho Dorji 理学療法士(ダガナ病院)
Yeshi Nedup 村長代理(トンサ県ツァンカ村役場)
Neteng Tsering (ブムタン県ドゥル村)

４．研究成果

(1) 2012 年 3 月 6 日～3 月 27 日にトンサ県ツァンカ村にて、2013 年 2 月 25 日～3 月 24 日 2013 年にトンサ県ツァンカ村及びワンディポジャン県にて、2013 年 12 月 19 日～2014 年 1 月 5 日にトンサ県ツァンカ村及びブムタン県チョコル郡にて、計 3 回の現地調査により収集した音韻・音声・形態統語論のデータを分析した。音声面では、複合語におけるピッチに関する資料を収集分析した。形態面では、基礎語彙に関する歴史言語学的研究を行った。統語面では談話資料を収集する必要性から、民話の収集も行い、格標識が談話の中で果たす役割や、格標識の省略などを分析も行った。また社会言語学側面に関しても言語使用の実態について解明することができた。
(2) マンデビ語の基礎語彙における借用関係や言語接触、及び年代差に関する資料を収集し、語彙の来源に関しての初歩的分析を施した。
(3) マンデビ語の概要を世界で初めて英語により発表し、ブータン諸語研究者のみならず、現地の教育研究機関にもデータを提示することができた。
(4) マンデビ語の正書法の試案を Nishida, Fuminobu. 2011. The Mangde Orthography. Paper presented at the 17th Himalayan Languages Symposium. Kobe University of Foreign Studies.として発表した。
(5) シナ＝チベット語族におけるブータン諸語の位置及び研究の回顧と展望を西田文信. 2013.「ブータン諸語の記述・歴史言語学的研究の現状」『秋田大学教養基礎教育年報』第 15 巻. pp. 75-82.として発表した。また当該論文では、従前発表されたブータン諸語研究文献目録を提示した。
(6) マンデビ語文の下位分類を、西田文信. 2013.「マンデビ語の文の下位分類」澤田英夫編.『チベット=ビルマ系言語の文法現象 2 述語と発話行為のタイプからみた文の下位分類』pp.261-282. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.として発表した。
(7) また、ゾンカ語の概説を西田文信ほか. 2012. 『ニューエクスプレススペシャル日本語の隣人たちⅡ』（共著）中川裕監修. 担当分:「ゾンカ語の世界」. pp.92-113. 白水社. 及び西田文信. 2013. 『旅の指差し会話帳 ブータン』情報センター出版局.として発表し、研究成果の社会的還元を果たした。後者では、基礎語彙を提示するとともに、ゾンカ語文法の基礎をわかりやすく提示するよう努めた。基礎語彙はゾンカ文字・ゾンカ語の発音・英語・日本語を併記した。社会貢献の一環として、秋田市立中央図書館、国際協力機構研究所、秋田大学北秋田分校、秋田大学東京サテライト等で積極的に情報発信を行った。
(8) 今後必要となるのは，個別言語の詳細な記述的研究である。個々の研究者が蓄積しているデータベースに集約させブータン社会への還元を帰すとともに（基礎語彙集・文法概要・民話集)、マンデビ語をはじめとするブータン諸言語の新たな研究の中心的基盤として展開していくことが肝要である。将来的には，言語保持に必要な教育環境の整備（文字作り、教材、教員養成、その他）に重要な貢献となるべく研究を進めてゆくべく、研究者間で連携を図る。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　10　件）

① 境田 英昭、西田 文信、基本ゾンカ単語帳、地球の歩き方ブータン、査読無、2014、pp.298-299.
② 西田 文信、ブータンの地域言語調査、ゾンカ語文法の基礎、地球の歩き方ブータン、査読無、2014、pp.291-294.
③ NISHIDA, Fuminobu, The Mangde language in Bhutan, *Bhutan Journal of Research and Development*, 査読有, Autumn 2013, 2014, pp.30-46.
④ 西田 文信、100 年前にブータンへきた人々、ブータン友好協会会報、査読無、2013、p.5
⑤ 西田 文信、ブータン諸語の記述・歴史言語学的研究の現状、秋田大学教養基礎教育研究年報、15、査読有、2013、pp. 75-82.
⑥ 西田 文信、「世界でいちばん幸福」をめざす国で、 教育、査読有、2012 年 12 月号、2012、pp.114-115.
⑦ NISHIDA, Fuminobu. Sino-Tibetan languages and gender issues, *Akita Association of English Studies Newsletter*, 査読有, No. 13, 2012, pp.4-5.
⑧ NISHIDA, Fuminobu. Mangde in Bhutan, *Annual research report on general education, Akita University*, 14, 査読有, 14, 2012, pp.77-87.
⑨ NISHIDA, Fuminobu. Event reports: the 5th Mediaeval Tibeto-Burman Languages Symposium / the 15th Himalayan Languages Symposium. 1-5 September 2010. *Centre for South Asian Studies*

Annual Report, 査読有, Issue 75, 2011, p.20

⑩ NISHIDA, Fuminobu. Conference report: the 5th Mediaeval Tibeto-Burman Languages Symposium and the 15th Himalayan Languages Symposium. School of Oriental and African Studies, University of London, 1-5 September 2010. *Linguistics of the Tibeto-Burman Area*, 査読有, Vol. 34 No. 1, 2011, pp.157-158.

〔学会発表〕(計 12 件)

① NISHIDA, Fuminobu. The Brokkat language in Bumthang, Bhutan, The 19th Himalayan Languages Symposium, 2013.9.6. The Australian National University (Australia)

② 西田 文信、ブムタン県ドゥル村の遊牧民―言語特徴とその背景―、第2回ブータン勉強会、2013.5.11、早稲田大学（東京都）

③ 西田 文信、山本けいこ、ブータン王国から学ぶこと ～真の幸せとは～」秋田大学東京サテライト教養セミナー、2013.2.8. 東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター東京(東京都)

④ 西田 文信、変わるブータン、変わらぬブータン、 第1回ブータンシンポジウム、2012.12.16.国際協力機構研究所（東京都）

⑤ 西田 文信、ブータン王国の East Bodish 諸語の系統と分類について、日本南アジア学会第 25 回全国大会、2012.10.6. 東京外国語大学（東京都）

⑥ 西田 文信、ブータン王国から学ぶこと～真の幸せとは～、秋田大学北秋田分校教養セミナー・北秋田市高鷹大学全体講座＆一般公開講座、2012.9.20. 北秋田市文化会館（秋田県）

⑦ 西田 文信、ブータン諸語の記述・歴史言語学的研究の現状、第2回ブータン研究会、2012.5.13. JICA 地球ひろば（東京都）

⑧ 西田 文信、ブータン王国の文化・社会・ことば、2012.2.25.26. 秋田市立中央図書館（秋田県）

⑨ NISHIDA, Fuminobu. Sino-Tibetan languages and gender issues, Annual Meeting of Akita Association of English Studies, 2011.12.3. Akita University (Akita)

⑩ 西田 文信、ブータン・チベット地域の言語調査、秋田にほんごの会第 131 回学習会、2011.10.15. 秋田県民会館（秋田県）

⑪ 西田 文信、ブータンをフィールドワークする、フィールド言語学カフェ(研究未開発言語の調査報告会)、2011.9.24. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(東京都)

⑫ NISHIDA, Fuminobu, The Mangde Orthography, The 17th Himalayan Languages Symposium, 2011.9.7. Kobe City University of Foreign Studies (Kobe)

〔図書〕(計 3 件)

① 北原 次郎太，永山 ゆかり，バヤリタ，ブリガ，児倉 徳和，久保 智之，西田 文信，加藤 高志，野島 本泰，ダニエル ロング，ニューエクスプレススペシャル 日本語の隣人たちⅡ、 白水社 、2013、172

② 西田 文信，旅の指さし会話帳〈81〉ブータン(ゾンカ語)、情報センター出版局、2013、128

③ 西田 文信、マンデビ語における文の下位分類、澤田英夫編．共著者(岡野賢二、加藤昌彦、本田伊早夫、鈴木博之、荒川慎太郎、大塚行誠、髙橋慶治、桐生和幸、西田文信、林範彦、星泉、池田巧、白井聡子、海老原志穂）チベット＝ビルマ系言語の文法現象２－述語と発話行為からみた文の下位分類－、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2013、pp.261-282

〔その他〕

本研究の研究成果は、ブータン王国政府の言語研究機関であるゾンカ語開発委員会（Dzongkha Development Commission）へも提出済みである。研究代表者の同国入国の際の受け入れ機関であり、調査許可の条件として、同国で収集した言語資料の提出、分析結果、公表論文の提出が義務付けられており、また同国における言語政策への応用も踏まえ、このような形をとっている。

６．研究組織

(1)研究代表者

西田　文信　(NISHIDA Fuminobu)
岩手大学・人文社会科学部・准教授
研究者番号：40364905